

第73回都市計画全国大会

～群馬県高崎市～

茨城県土木部都市局都市計画課

令和3年10月28日（木）に第73回都市計画全国大会が、今年度はコロナ禍のため、オンライン形式で開催されました。



【大会プログラム】

- 10:00 開会式
- 10:20 表彰式
- 11:00 全体会議
- 13:00 部会
- 15:40 記念講演
- 16:40 閉会式

群馬県県土整備部長の開会宣言のあと、原田都市計画協会会長による主催者挨拶、群馬県知事・高崎市長の挨拶があり、続いて都市計画協会会長賞、土地区画整理阿部功労賞など各種表彰が行われました。

全体会議では、国土交通省大臣官房技術審議官の望月氏より、水災害リスクに対応する防災まちづくりとして、3D都市モデルPLATEAUの活用による水災害リスク分析の有効性や、新型コロナ危機を契機としたニューノーマルへの対応など、都市行政をめぐる最近の動きについての説明がありました。

続く部会は、第1部会から第3部会に分かれて行われ、テーマに沿った、各自治体での事業内容等の報告がありました。

第1部会は「ウォーカブル、ニューノーマルなまちづくり」をテーマに、地域の活力低下に対して、居心地がよく歩きたくなるウォーカブルな空間形成や、オープンスペースの充実、職住近接などニューノーマルに対応したまちづくりについて報告がありました。

愛媛県岡崎市では、公民連携のまちづくりとして、整備後の具体的な活用を民間と検討した上での再整備や、

橋上を広場化し、Park-PFI制度の活用による公民連携のプロジェクトにより、まちの暮らしの質とエリア価値の向上が図られています。

第2部会では「歴史的風致の形成によるまちづくり」をテーマに、歴史的風致維持向上計画に基づく、周辺市街地と一体となった優れた景観形成など、地域の特色を活かした歴史的風致の形成によるまちづくりについて報告がありました。

群馬県甘楽町では、名勝梁山園を中心に、小幡城下地区を重点地区と定め、来訪者の歴史的風致への関心や周遊性の向上を図るため、町の歴史や文化の情報発信施設の整備、武者行列や茶会などのイベント開催による歴史や文化の啓発事業が行われております。事業の実施により、入込客数が平成22年と比べ、近年は約2倍に増加しており、引き続き歴史的風致の維持や向上が図られています。

第3部会では「防災・減災を主流化したコンパクトなまちづくり」をテーマに、近年の激甚化、頻発化する自然災害に対応し、持続可能で魅力あるまちづくりについて報告がありました。

岡山県倉敷市では、様々な災害に対し、被害を最小限に留めるとともに、安全な地域への居住等の誘導を連携させることを考慮し、居住等の誘導を推進するため、立地適正化計画の作成に併せて、防災指針を定めています。

災害の種類に応じた災害ハザードリスクや警戒避難体制の整備状況等を総合的に勘案したうえで、居住誘導区域の設定をしており、区域設定に際しては、GISを活用し、災害ハザード情報や人口、都市機能の集積状況等のデータを重ね合わせた分析を行っております。

その後、記念講演として「ポストコロナの都市政策」と題し、明治大学の野澤教授が講演されました。

非線引き地区は、3000㎡未満の開発行為の許可が不要であるため、住宅等がばらつきやすい傾向にあるが、デマンド交通等の新技術導入のためにも、まちのまとまりが必要であるといった観点から、土地利用規制や住宅立地のコントロールの重要性などについて説明がありました。

次回開催地：長崎県長崎市